



特集

「利根山光人と北上の関わり」

展勝地の一角にある利根山光人記念美術館。
 ここは世界的画家・利根山光人のアトリエでした。
 今回は、利根山光人と北上の関わりについて紹介します。

問い合わせ 生涯学習文化課 ☎72-8304



陶板レリーフ「生命の樹」(聖徳大学附属小学校)
 ふれあい広場縦16m、横12mにおよぶ作品で、その大きさに合わせて
 屋根が改修されました

太陽の画家

とねやまこうじん
利根山光人

戦後の日本現代美術をリードした利根山光人。ストラヴィンスキーの音楽に触発された前衛絵画を油彩で制作する一方で、リトグラフの印刷機を使って版画の制作を始めました。その後、岩波映画製作所が製作した記録映画「佐久間ダム第一部」(1954年公開)を見て心を揺さぶられ、建設現場で制作するなど、社会派の画家として活躍しました。1950年代末には、メキシコを訪れ、マヤ文明を見て衝撃を受け、その古代文明をモチーフとした作品



ねぶた84~85'(油彩)

を制作。それ以降も、たびたびメキシコを訪れ、古代文明からの示唆を現代社会や現代人への問い掛けとして描き続けます。その後も交流を続け、メキシコの最高文化勲章アギラ・アステカ・プラーカ章などを受章。メキシコを題材とした情熱的な

利根山光人略歴

1921(大正10)年

茨城県結城市に生まれる

1943(昭和18)年

早稲田大学卒業

1951(昭和26)年

第3回読売アンデパンダン展

1953(昭和28)年

「抽象と幻想展」(東京国立近代美術館)

1959(昭和34)年

個展(メキシコ国立芸術院)

日本版画協会会員になる

1963(昭和38)年

「マヤ芸術の拓本展」

(東京国立近代美術館)

1965(昭和40)年

「メキシコ古代拓本展」

(メキシコ国立近代美術館)

1972(昭和47)年

メキシコ政府より

アギラ・アステカ・エンコミエンダ章受章

著書「メキシコの民芸」(平凡社)

1973(昭和48)年

紺綬褒章受章

1976(昭和51)年

第1回アトリエ展(以後隔年で開催)

聖徳学園附属多摩中央幼稚園・第3幼稚園に陶板壁画制作

1981(昭和56)年

第6回吉田五十八賞受賞(建築美術部門)

北上駅陶壁画「日輪」制作

1982(昭和57)年

北上駅コンコースの陶壁画「日輪」

除幕式

1985(昭和60)年

第17回日本芸術大賞受賞

1987(昭和62)年

メキシコ政府より

アギラ・アステカ・プラーカ章受章

1991(平成3)年

個展「戦中派の証言展」(日本画廊)

大阪国際版画トリエンナーレ展銅賞受賞

個展「世紀末の黙示録ー利根山光人ー展」

(キッドアイラックアートホール)

1992(平成4)年

個展「戦後美術の軌跡6」(SOKO東京画廊)

1994(平成6)年

永眠(4月14日、享年72歳)

1995(平成7)年

「利根山光人展ー太陽と古代・そして永遠への憧憬ー」

(東京都世田谷美術館)

2013(平成25)年

「利根山光人展ーバイタリティーを求めてー」

(町田市立国際版画美術館)



インド女神マヤ像(油彩)

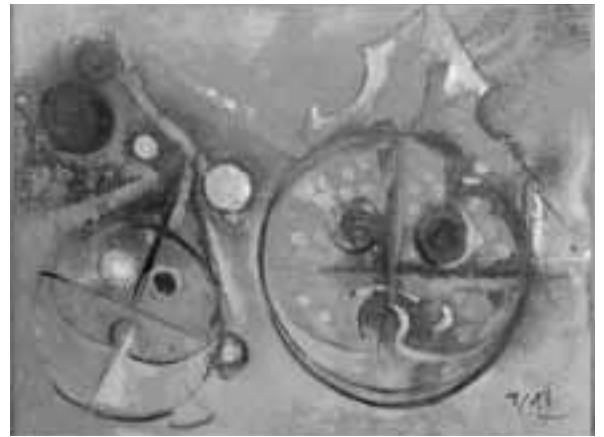


無限(聖徳大学川並香順記念講堂ホール)
※緞帳の制作や客席椅子などの色調設計は利根山光人。



マヤ(水彩)

作品を数多く残し、太陽の画家と呼ばれました。
80年代以降は、インド各地の石窟群や日本の祭り、闘牛、ドン・キホーテを主人公とした小説などをモチーフにした作品を制作。人間のバイタリティーを表現し続けました。その一方で、戦争の爪痕を描き出すことで、現代文明の危機を伝えようとしてきました。
また、日本各地に利根山画伯が制作した壁画が残されており、さまざまな芸術活動により、紺綬褒章や日本芸術大賞など数多くの賞を受けています。



金魚ねぶた(油彩)

世界的画家の利根山画伯と北上市との交流が始まったのは、昭和47年に岩手県芸術祭の審査員として来県したときからでした。
帰途北上市を訪れ、鬼剣舞や鹿踊を鑑賞。感銘を受け、展勝地の一角にアトリエを建設し、毎年のように北上みちのく芸能まつりを訪れ、民俗芸能を制作上のライフワークの一つとしました。昭和50年から平成6年に72歳で亡くなるまで、約20年間で制作活動を続けました。

北上と光人



立花のアトリエで作品を制作する利根山光人

北上駅陶壁画

昭和57年、北上駅西口コンコースに鬼剣舞と鹿踊をモチーフにした陶壁画「日輪」を制作。これは今でも北上駅のシンボルとなっています。



(上)北上駅西口コンコースの大陶壁画「日輪」の下絵。壁画の10分の1の3500×1800(下)北上駅のシンボルとして観光客を出迎えます。

東北はもと縄文文化のセンターであった。北上市周辺に古くより伝わる代表的な民俗芸能鬼剣舞と鹿踊には、日本人の原点ともいべき縄文のエネルギーがかくされている。勇壮 華麗 躍動 そしてきびしさを秘めた律動の中に、東北のエネルギーを、縄文の火を表現してみた。北上市の発展の祈りをこめて、壁画の一部には展勝地の石を砕いて使用している。
(壁画そばの利根山光人による注釈より)



鹿踊をモチーフに制作する利根山画伯

人の出会いはいつどこで決定的なことになるのか改めて不思議に思います。もう40年も前のことになりましたが、昭和47年に利根山光人は岩手県芸術祭の審査員として東北の地を初めて訪れました。審査は2日間で終わり、その夕刻に東北地方の伝統芸能である鬼剣舞、鹿踊を拝見した際、全身に一撃を受けた感じになり自分が思っていた東北のイメージが一変したそうです。その場所は、うっそうとした森に囲まれた農家の庭で、素晴らしい装束、赤、白、緑の面を着



利根山光人の妻
利根山 彌恵子 さん

けた鬼たちが舞台装置さりながら次々と現れ、大地を踏み鳴らし、鹿踊は頭に長いささらを揺らし、小太鼓の音はシーンとした森に消えていき、狂うように舞う姿に全身鳥肌が立ち、熱き血は湧き、その底力に圧倒され、しばし言葉も出なかったそうです。それ以来、鬼の現れる祭りがあると耳にすると日本中どこでも出掛けておりましたが、北上の鬼剣舞、鹿踊は、主人の永遠のテーマとなりました。また、そのころの北上市長様はじめ高橋喜太郎様、その他お集まりくださった方々と、大変親しく、いろいろ進歩的な話について、それぞれ口角泡を飛ばすごとく大声で話し合っている様子を、わたしはそばで見えておりました。そうこうしているうちに、北上は主人にとってかけがえのない第二の故郷になったのです。北上川を目下にする小さなアトリ工を記念美術館にしていたとき、市長、市民の皆さんには大変お世話になり、心より感謝でいっぱいでございます。



鬼剣舞(油彩)

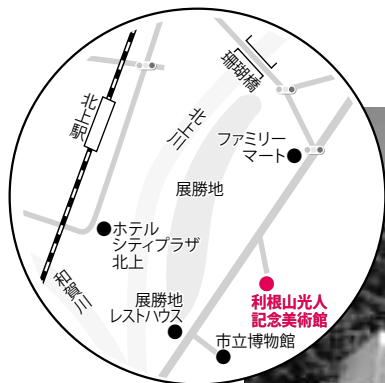
利根山光人記念美術館

平成7年、利根山彌恵子夫人からこのアトリエと作品の一部が北上市に寄贈されました。広く市民に公開し、芸術文化の拠点とするため、8年、利根山光人記念館が開館。13年、記念館が5周年を迎えたことを機に「美術館」と改称し、芸術文化の振興に活用しています。

また、美術館の外観には太陽の画家といわれた利根山画伯のシンボルマークが描かれています。



(上)日月(木版)
(右)メキシコ教会(油彩)



利用案内

▽住所：立花15-153-2

▽電話番号：65-11808

▽開館時間：午前10時～午後4時
(入館は午後3時30分まで)

▽休館日：12月～3月までは冬季休館、4月～11月は無休(企画展展示などによる特別休館日あり)

▽観覧料：一般300円、高校生120円、小・中学生60円、小学生未満は無料、団体20人以上(一般180円、高校生80円、小・中学生40円)

も分からず高級ホテルに何泊もし、先生にもっと行くべきところがああるし、ホテルもより格安なところがあると叱られました。先生と



友人と談笑する利根山光人画伯(左側)

北上画廊を営む父のもと作品の運搬などを手伝っており、利根山先生のアトリエにもお伺いしました。夫妻が北上に来られるたび、メキシコの遺跡の拓本や古い楽譜の額などを見た。心遣いに感謝しています。我が家での会食の際、物静かな先生が海外取材の話について熱心に語られました。特にメキシコの文明、民族舞踊、芸能、民芸品の話に感動し、家内と姉妹都市コンコードを訪れた際、メキシコまで足を延ばし、テイオティワカン遺跡、近代美術館シケイロスの壁画、河に浮かぶ畑のソチミルコ、アカプルコなどを観光しました。何



利根山光人記念美術館
友の会会長
高橋 喜一郎 さん

来北のメキシコ大使や高官の皆さんとお話したのも楽しい体験でした。先日、町田市立国際版画美術館で先生の版画展を鑑賞しましたが、改めて作品の素晴らしさに感動しました。利根山光人記念美術館友の会は、先生の絵画に親しむことを通じて、美術館の諸活動に協力し、芸術文化の振興に寄与することを目的としています。父が亡くなり、友の会会長を務めてきましたが、先生を記念する大賞展に携わることができて、大変光栄に思っています。先生の美術館が北上に存在すること、先生の業績を広く知っていたくため、友の会会員の増加と大賞展の継続が大切です。今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

利根山光人記念美術館友の会 会員募集

詳しくは、同会の高橋会長(☎64-11178)へ問い合わせてください。

利根山光人記念美術館 専任研究員 高橋 大八さん

利根山画伯の作品の特徴は、額縁からはみ出さんばかりの構成で、大胆な形態、強烈な色彩、自由奔放な線にあります。画伯の並外れた迫力と情熱を秘めた芸術に圧倒され、元氣と勇氣を与えられます。

利根山光人記念美術館
常設展

利根山光人記念美術館では、画伯が造形的美しさに衝撃を受け、制作上のライフワークの一つとした東北の民俗芸能をモチーフにした作品「日輪」集」などの200号の大作を中心とした常設展「東北の祭シリーズ」を開催しています。

今にも踊りだしそうな鬼剣舞や鹿踊りの作品は、エネルギーが溢れ出る人を感動させます。



(右)日輪80(油彩) / (左)鬼剣舞(リトグラフ) / (下)日輪(木版)



利根山光人記念美術館
企画展

利根山画伯作品展や北上市にゆかりのある作家の功績を顕彰する郷土先人画家展などの企画展を開催しています。

平成26年度も開催予定で、広報紙などでお知らせします。



(上)24年度伊東才紀展「ヴェネツィア」
(左上)25年度鬼柳洋一展「鷹」
(左)25年度及川宏一展「鮭」

年度	企画展
22	<ul style="list-style-type: none"> ●阿部輝雄展 北上に生まれ北上を愛し北上で文具店を経営、自らも絵を描いた町の庶民派画家 ●吉田守夫展 詩情豊かな水彩画を描き続けた画家
23	<ul style="list-style-type: none"> ●利根山光人の世界 卓越したデッサン力に支えられた多彩な表現 ●児玉晃展 北上に生まれ育ち、美術の道を志し、色彩の研究においても大成した画家 ●駒込法子展 更木に生まれ育ち、農村風景と子どもらを愛し続けた画家
24	<ul style="list-style-type: none"> ●利根山光人展 情感に訴えるデッサン力 ●伊東才紀展 色彩のタッチできらめく生命感を表現
25	<ul style="list-style-type: none"> ●利根山光人 世界スケッチ歩き モチーフを求めて世界スケッチ歩き ●鬼柳洋一展 慈悲の心と郷土愛で描いた画家 ●及川宏一展 岩手の美術教育の礎を築く

利根山光人記念美術館
絵画教室

利根山画伯の思いでもある後進育成のため、毎年4〜11月に絵画教室を開催しています。

絵画の基礎、油絵の描き方などデッサンから油彩まで、同美術館専任研究員が一人一人の技術やペースに合わせて、月に2回の教室で指導しますので、初めての人でも安心して受講できます。これまでに100人以上が受講しており、修了後も、画伯の名前一字をとった「光の会」として、仲間と励まし合いながら制作を続け、毎年、展示会を開催しています。

平成26年度受講生の募集については、2月28日発行の広報紙「マナビイページ」でお知らせします。



受講生に指導する千田専任研究員

絵画教室に参加して



(上)油彩画の完成に向けて制作する参加者／(右)完成した作品を展示している修了展

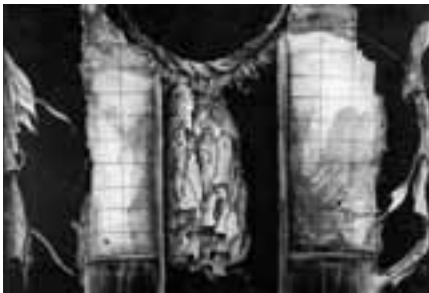


平成24年度の絵画教室に参加させていただきました。油絵が初めてなので不安でしたが、千田浩文専任研究員のご指導のもと、やっと絵つこらしくなりうれしく思っています。先輩方の「光の会展」に未熟にもかかわらず、出展させていただき感謝しております。現在、月に1回、仲間9人とさくらホールで楽しく活動しています。昨年11月には、ささやかに初めての展示会を開きました。今後も続けていけるように絵画に親しんでいければと思っています。
(修了生 齋藤 正太郎 さん)

大賞受賞の思い出

第3回大賞受賞者

川杉 雅江さん



北上の民俗芸能に魅せられて、この地に留まれた利根山光人の名のもとに、大賞展が全国公募で行われると知ったとき、何か心が踊るのを覚えました。

子どもころから見てきた祭の音、響き声、楽しさの裏側にある怖さ、恐ろしさ、そして、昔話など、心の中の北国を絵で表現したいと思いつけていたので、この思いを大賞展にぶつけてみたいと思いついて出展しました。出展1回、2回、そして大賞、「やったー」。わたしの心の中をのぞいてくれたのかな、うれし恥ずかしでした。



第5回大賞
「私たちのだいじな何か」
菊池 咲

平成13年、利根山画伯を顕彰し、幅広い芸術文化活動を展開するため絵画の公募展「利根山光人記念大賞展 ビエンナーレ・きたかみ」を創設しました。その後「トリエンナーレ・きたかみ」に改称。通算5回開催しました(現在休止中)。
また、美術館開館25周年(平成33年)を記念した事業の開催に向けて、利根山光人記念美術館友の会で基金設立を検討しています。

利根山光人記念大賞展

回	大賞受賞作品名	氏名
1 (平成14年)	夢意識的精神構築記“暖かい愛情で潤う生命の樹”	傍嶋 飛龍さん (神奈川県)
2 (平成16年)	降臨	菊地 仁美さん (北上市)
3 (平成18年)	北国の祀り(おしらすま)	川杉 雅江さん (北上市)
4 (平成21年)	宴たけなわ、今夜も大忙し!	都丸 直子さん (愛知県)
5 (平成24年)	私たちのだいじな何か	菊池 咲さん (奥州市)